



# JSQC ニュース

No.278

発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス JABMS100-2007の目指す審査とは
- 2-私の提言 会員の方々からもっと広く研究開発へのご意見を
- 2-ルポルターージュ 第322回本部事業所見学会ルポ
- 3-第323回中部事業所見学会ルポ/5月の入会者紹介/研究報告書頒布
- 4-行事案内/教員公募

## JABMS100-2007の目指す審査とは

(株)エル・エム・ジェイ・ジャパン 永芳 稔

財日本適合性認定協会(JAB)は本年4月13日、「マネジメントシステムに係る認証審査のあり方」と題するニュースをホームページ [http://www.jab.or.jp/news/2007/070413\\_1.html](http://www.jab.or.jp/news/2007/070413_1.html) に掲載した。このJABの「マネジメントシステム審査」に於けるある意味大きな方向転換について論じてみたい。

これは、従来のISO/IEC62 (品質)、ISO/IEC66 (環境) 二つを統合したマネジメントシステム認証機関に対する要求事項を規定するISO/IEC17021が2006年9月に発行されたこと。それによりJABは認証機関(審査機関)への認定システムを新たに構築し、2007年5月22日から適用することを通知している。さらにJABは、そのために新たな「マネジメントシステム認証機関に対する認定の基準」(JAB MS100-2007) [http://www.jab.or.jp/cgi-bin/bal/jab\\_bal\\_rb\\_j.cgi](http://www.jab.or.jp/cgi-bin/bal/jab_bal_rb_j.cgi) を制定した。

「マネジメントシステムに係る認証審査のあり方」では、いままでのマネジメントシステム(MS)構築と審査の問題点を次のように指摘している。「一方、規格要求事項の視点から組織のMSを捉えるあまり、ともすると組織の本来業務(ビジネス)とは別の異なる仕組みとして、規格ごとに個別に構築、運用するケースが見られ、また第三者による認証審査も、これを看過

するばかりか、むしろ助長しているとの利害関係者からの意見も見られます」、控えめではあるが、まったく本質を突いた批判であるといえる。

MSには以下の側面があると指摘している。「a) 製品(サービス)の質に関する側面、b) 環境に与える影響の側面、c) 組織に対する脅威の側面である」。そして、品質、環境、セキュリティなどの「MS規格の要求事項は、各々の段階で第三者認証を受けるか否かではなく、組織のビジネスの流れに基づいた一つのMSのなかに組み込まれ、統合一体化されて、初めて有効に機能することになる」と主張している。

結論として、新しい認証審査のあり方として、次のような問題提起をしている。

- 1) ビジネス全体の視点からの審査：組織のMSは基本的に一つのシステムであるから、認証審査においても、審査員の専門分野の知識のみに深入りするのではなく、ビジネス全体のニーズ(要求事項)とMS規格の要求のつながりをプロセスアプローチ的に審査し、組織とその顧客に付加価値のある認証サービスを提供することが重要である。
- 2) マネジメントシステムの有効性の審査：MS認証審査は、関連する規格の規定要求事項への適合、不適合の確認だけでは不十分である。MSがシステムとして有効に機能しているかどうか

かは、所定の(期待する)目標に向かって、そのシステムのパフォーマンスが向上しているかどうかで判断する必要がある。

JAB MS100-2007は、上記のような考え方を実現するため、ISO/IEC 17021:2006を全面的に導入することを明記している。

品質にせよ、環境にせよ、規格の項目番号どおり、規格の文言をコピーしたような「マニュアル」と称する実務とは何の関わりのない文書を作成させ、それに基づいて、規格の文言通りやっているかだけを見るような審査が行われているのが実情であろう。こんなこと、規格が要求していないことは自明であるのに…。

JABが「マネジメントシステムに係る認証審査のあり方」で訴えている背景は、現状の審査では、このスキーム自体が崩壊するという危機感であろう。多少タイミングが遅かった感もあるが、このJABの英断にエールを送りたい。

### 参考文献

- 1) ISO/IEC 17021:2006「適合性評価-マネジメントシステムの審査及び認証を提供する機関に対する要求事項」(英和対訳版) 2006.9月 (財)日本規格協会
- 2) 「マネジメントシステムに係る認証審査のあり方」 JABHP As of 2007/07/07
- 3) 「マネジメントシステム認証機関に対する認定の基準」(JAB MS100-2007) JABHP As of 2007/07/07

## ● 私 の 提 言 ●

## 会員の方々からもっと広く研究開発へのご意見を

電気通信大学  
研究開発委員長 榎 美智子



1992年  
Oxford大学統  
計学科（応用  
統計学）に訪  
問研究員とし  
て滞在してい  
たとき、High  
Tableでの食

事の際に、他分野の教授が「私はよくドキッとする質問をされると言われるのですが」と前置きをされた後で、「日本が世界をリードしてきた自然科学の分野は何ですか」とおっしゃられた。そのときのことが頭を離れないまま、今井兼一郎先生（元JSQC会長）にご紹介をされた、工学教育の国際会議にご出席されていた現JABEE会長の大橋秀雄先生（東大名誉教授（機械工学））にそのお話を致しましたところ、「あ

なた方の分野の品質管理などはそうなのではないの」と言われ、あらためてハッとしたことを思い出します。諸先生方の品質管理の考え方・方法論は、諸外国の言語に翻訳されていました。

それから、15年という時が流れました。時代の中で求められるスピードが非常に速くなりました。その中で、世界をリードしてきた状況はどのように変化したのでしょうか？国際学会に出かけて行って、他国の研究者の理論を聞いて、それをモデルファイして進んでいけばよいというような状況にあるわけではない。そして、品質を管理する、向上させるといったニーズは、時代の変化の中で、空間的な広がりや時間軸的な広がりを見せている。

空間的な広がりとしては、伝統的な製造業の他に、サービス産業、ソフトウェア、信頼性・安全性、医療、教育等、時代の要請に込んでいる。JSQCの研究会でも、中期計画のQの展開で、現在の問題に対して真に効果のある手法・利用技術の研究開発に力を入れている。そして、周囲への対象領域の拡大（他学会との連携）や科研費等の外部資金導入による活性化にも力を入れている。実際、伝統のあるテクノメトリックス研究会を母体として科研費基盤研究（A）を獲得している。また、JSQCの各研究会での研究成果は研究発表会、シンポジウム、学会誌等でタイムリーに公表を行なっている。どうか興味のある分野に関しては、お目を通し下さい。

また、時間的拡大としては、将来必要となる品質管理概念・手法の研究開発を目指しております。どうか、産業界会員の皆様、特に若手の皆様、新しい研究会へのご意見を頂ければと思います。そして、ご参加下さい。

第322回本部  
事業所見学会  
ルポ

本田技研工業(株)  
埼玉製作所  
「HONDAの桁違い品質」

第322回本部事業所見学会は、2007年4月23日(月)に、埼玉県狭山市にあるホンダ埼玉製作所で開催され、総勢67名の方にご参加戴きたいへん盛況であった。

当製作所は、ホンダの国内初四輪車一貫生産工場として1964年に操業を開始した。現在、従業員6,500名、年間生産54.6万台で、同一ラインで9機種13車種を生産しており、その活動の中で「桁違い品質」を実現している。

事業所説明の後、主要車種であるレジェンド・オデッセイ・CR-V等の、エンジン組立、完成車組立及び溶接ラインを見学した。現場は5Sが徹底された綺麗な工場、部品在庫を持たないシステムを構築しており、空間を有効活用した部品供給ラインや無人搬送ロボット、また多くの従業員がラインの流れに乗ってテキパキと働いていたのが印象的であった。さらに溶接ライ

ンでは、500台のロボットが休み無く動いており、約50秒に1台のペースで車が生産されていた。

現場見学後に講演があり、ものづくり活動の一端が紹介された。桁違い品質では、「ものづくりの現場・源流を中心に、お客様視点で企業活動のすべての仕事の質を高めること」を狙っている。その実現のためのキーワードが『人に優しい工程づくり』である。人に優しいとは、設計では「作りやすい車の設計」（現場で特別な管理をしなくても、ばらつきを小さく、お客様に不満を与えない車作り）、工程では「人が作業に専念できる工程」（特に多機種混合ラインでは重要）。このために現場では工程保証能力向上展開（生産条件の変化に対応した、不具合を出さない工程体質づくり）を実践しているとの説明があり、事例紹介が行われた。

最後に、創業者本田宗一郎氏にまつわるお話の中で、「高い技術があっても、志がお客様に向かっていなければ、高い品質は生まれない。」との言葉が心に強く残った。大変有意義な見学会であり、改めてホンダ関係者の方々に感謝申し上げる。

飯塚敏之（財日本規格協会）

## 第323回中部 事業所見学会 ルポ

### 三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所 小牧南工場

さる2007年6月22日(金)に第323回事業所見学会(中部支部第81回)が、三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所小牧南工場にて開催され、『失敗学に学ぶ品質向上活動及び人材の育成』のテーマの下、46名が参加した。

同社大江工場は、先の大戦中に旧三菱重工業が「零式艦上戦闘機」を製造していたことで有名である。現在では大江工場、飛島工場、小牧南工場に分かれ、大江工場では部品の製造、飛島工場では航空機の構造組立と宇宙機器の製作、そして小牧南工場では航空機の最終組立、飛行整備、修理作業が主に行われている。

見学に先立ち工場長が挨拶されたが、その「テストフライトを許可するのは担当課長一人であるが、疑問があればだれでもそのフライトを止めることができる」という言葉に表されるように、安全のために全員

がプライドと責任を持って作業していることに感銘を受けた。見学ではF-15戦闘機の整備工程から始まり、旅客機の胴体パネルリベット工程、F-2支援戦闘機の最終組立機装工程、ヘリコプタの整備工程と、広い敷地内の格納庫を一通り巡って見学出来、ハイテクの結晶である航空機が一人一人の技によって製作されていることに参加者一同驚かされた。そしてその品質を支えるのは「人・質(じんしつ)」という説明があり、失敗学を取り入れた教育や、技能塾・検査道場に代表される育成プログラムによって構築されていることがよく理解できた。

開催日は生憎の梅雨空であったが、充実した見学内容と丁寧な説明とで非常に有意義な見学会であったと思う。また、新企画の参加者意見交換会でも参加者同士の活発な意見交換が為され、企画をした幹事として大満足の結果となった。翌日は梅雨の合間の快晴であった。その青空彼方に描かれた一条の飛行機雲を見て、飛行機の安全は三菱重工業のような着実な品質管理活動によって支えられていることを改めて感じた。

高田 亨(ブラザー工業(株))

## 2007年5月の入会者紹介

2007年5月17日の理事会において、下記の通り正会員16名、準会員19名、賛助会員2社の入会が承認されました。

(正会員16名)○韓 哲権(サンデン)  
○渡部 雅男(日本ヒューレット・パッカー)  
○浅野 徹(ナルコーム製作所)  
○西田 和美(聖路加看護大学)  
○波部 豪(JCLバイオアッセイ)  
○森 裕(愛知学泉大学)  
○葛巻 嘉夫(日本マタイ)  
○伊藤 敏(日立グローバルストレージテクノロジーズ)  
○五味 聡(テラプロープ)  
○前田 義人(トヨタ自動車)  
○石川 紳一(旭テクノグラス)  
○増田 豊彦(資生堂)  
○榎原 浩晃(デンソー)  
○矢澤 光行(エプソンインテリジェンス)  
○小串 真樹(ユニテックフーズ)  
○北 直英(森田化学工業)

(準会員19名)○向井 稔(中央大学)

## 事務局からのお知らせ

### 「価格対応品質実践研究会 研究報告書」頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申し込みください。

申 込 先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資 料 代：1冊(A4判189頁)会員2,600円(税込み)非会員3,250円(税込み)送料(冊子小包)：1冊340円。多数の場合、事務局までご連絡ください。申し込みと同時に下記宛お振り込みください。

振 込 先：(社)日本品質管理学会  
三井住友銀行 渋谷支店 普通預金 0922517

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

○池田 祐一(名古屋工業大学)  
○鈴村 彬・PUTRI PALUPI KUSUMANINGRUM・吉田 隆宏(東京大学)  
○畝本 一行・鐘 科(朝日大学)  
○村岡 賢治(明治大学)  
○野田 有美子(聖路加看護大学)  
○押部 春世・柏木 麻理子・菅原 幸織・田島 萌・中林 祐太・中村 紗希・中村 紗矢香・野口 春香(玉川大学)  
○岡田 修平(東京理科

大学)○平野 智章(武蔵工業大学)

(賛助会員2社2口)○テクノファ  
○日立システムアンドサービス

正会員2941名

準会員94名

賛助会員179社206口

公共会員22口

## 行事案内

## ●第326回事業所見学会（関西）

テーマ：食の安全性を究める一対米水産HACCP認定工場の取り組み

日時：2007年8月28日(火)13:00～17:00

見学先：(株)川喜

定員：20名

参加費：会員2,500円 非会員3,500円  
準会員1,500円 一般学生2,000円  
※当日払い

申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。

## ●第84回研究発表会（中部）

日時：2007年8月29日(水)  
10:00～17:15 研究発表会  
17:30～19:00 懇親会

会場：名古屋工業大学

定員：100名

申込締切：2007年8月22日(水)

申込方法：

7月送付の参加申込書にご記入の上、中部支部事務局までお申し込みください。

## ●第117回シンポジウム（関西）

テーマ：信頼される企業とは～コーポレートガバナンスとCSR～

日時：2007年9月11日(火)13:00～17:00

会場：大阪・中央電気倶楽部  
5階511号室

参加費：会員3,000円 非会員4,000円  
準会員1,500円 一般学生2,000円  
※当日払い

プログラム：

基調講演「信頼される企業とは～コーポレートガバナンスとCSR～（仮題）」 山内直人氏（大阪大学）

講演1「関西電力(株)のコーポレートガバナンスとCSRの取り組み（仮題）」 白井伊和雄氏（関西電力(株)）

講演2「積水化学グループの「CSR経営」」 近藤賢氏（積水化学工業(株)）

申込方法：

同封の参加申込書にご記入の上、関西

支部事務局までお申し込みください。

## ●第116回シンポジウム（本部）

テーマ：ICタグと情報伝達の現状と今後の動向

日時：2007年9月20日(木)10:00～17:00

会場：日本科学技術連盟  
東高円寺ビル 2階講堂

定員：150名

参加費：会員5,000円(締切後5,500円)  
非会員7,000円(締切後7,500円)  
準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切：2007年9月13日(木)

プログラム：

開催挨拶「情報ネットワークの現状」 大藤正氏（玉川大学）

基調講演「ICタグの現状と今後の動向」 九野伸氏（(株)日立製作所）

講演1「コムトラックス・システム」 笠原時次氏（コマツ）

講演2「機械に組み込まれた情報活用」 大月孝宏氏（サンデン(株)）

パネルディスカッション（講演者 他）

申込方法：

7月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。  
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

## ●第85回研究発表会（関西）発表募集中

日時：2007年9月21日(金)  
13:00～17:00（予定）

会場：大阪・中央電気倶楽部  
5階513号室

※研究発表（事例発表）申込要領はホームページの「行事一覧」からご確認ください。

<http://www.jsqc.org/q/news/2007/09/85.html>

## ●第99回講演会（本部）予告

テーマ：J-SOX法（仮題）

日時：2007年10月11日(木)13:00～17:00

会場：日本科学技術連盟  
千駄ヶ谷本部 1号館3階講堂

定員：150名

参加費：会員4,000円(締切後4,500円)  
非会員6,000円(締切後6,500円)  
準会員2,000円 一般学生3,000円

申込締切：2007年9月26日(水)

## ●第37回年次大会・名古屋工業大学（本部）

日時：2007年10月26日(金) 27日(土)

26日(金)午後

事業所見学会・年次大会懇親会

27日(土)

通常総会

各賞授与式

中期計画 報告

圓川隆夫氏

(JSQC会長・東京工業大学)

渡邊浩之氏

(JSQC副会長・トヨタ自動車(株))

研究発表会

参加費：

見学会（26日）

会員2,500円 非会員 3,500円

準会員1,500円 一般学生2,000円

懇親会（26日）

会員・非会員 4,000円

準会員・一般学生2,000円

研究発表会（27日）

会員4,000円(締切後4,500円)

非会員6,000円(締切後6,500円)

準会員2,000円 一般学生3,000円

(1)申込期限

発表申込締切：8月31日(木)

予稿原稿締切：10月1日(月)必着

参加申込締切：10月17日(水)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

7月送付の発表申込要領をご覧ください。

(3)参加申込

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

## 行事申込先

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1

白川ビル別館

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

## 教員公募

## 電気通信大学 教員公募のお知らせ

公募人員：准教授1名

所属：大学院情報システム学研究科 社会知能情報学専攻 経営情報システム学講座

専門分野：経営情報システム学

応募資格：(1)博士の学位を有すること。(2)着任時年齢が40歳未満であること。

着任時期：2008年1月1日（以降のなるべく早い時期）

提出書類：ホームページをご覧ください。

[http://www.jsqc.org/q/news/2007/06/post\\_5.html](http://www.jsqc.org/q/news/2007/06/post_5.html)

応募締切：2007年9月18日(火)必着

問合せ先：経営情報システム学講座 教授 田中健次

Phone: 042-443-5661 Email: tanaka@is.uec.ac.jp